

JASMA 会報

2025年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

1. 新年のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 年頭所感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3. 2025年新年賀詞交歓会開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
4. 第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定・・・・・・・・・・・・・4
5. 国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市(JIAM 2024 OSAKA)開催・・・・・・・・・・・・・5
6. インド強制規格の発効・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

1. 新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。

令和7年の年頭を迎え、皆様には希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し

上げます。

昨年は、我が国の景気は、一部を除き、緩やかに回復しました。海外経済も、米国景気の堅調さを中心に緩やかに成長した1年となりました。輸出や鉱工業生産は横ばいの動きとなっているものの、企業収益は改善し、業況感も良好な水準を維持しています。個人消費も、物価上昇の影響などがみられるものの、緩やかな増加基調にあります。

このような状況の中、昨年11月27日（水）から11月30日（土）までインテックス大阪において、**JIAM 2024 OSAKA**「国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市」を開催し、出展者数10か国・地域から157社、来場者数8,911人として開催できたことを改めて感謝申し上げます。前回は中国のゼロコロナ政策による原則海外渡航禁止措置がありましたが、今回は中国をはじめとする東南アジア、繊維業界でますます存在感を高めているインド、バングラディッシュなど南アジアの人々の来場を多くお見かけし、短期間での開催にもかかわらず、海外からの来場者は増加しており、これもひとえに会員、関係者各位のご支援とご協力によるものです。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

JIAMは、2024年から名称を「国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市」と一新し、縫製機器業界のノンアパレル分野への拡大に伴い、ハードウェア、ソフトウェア、サービスを扱う企業の拡大が予想されるため、「ノン

一般社団法人 日本縫製機械工業会
会長 内梨 晋介

アパレル」を加えた新名称へ変更しました。国内外メーカーの最先端技術、製品、サービスが一堂に集う縫製機器の国際見本市として、変革遂げる匠の技術と未来を支える最新技術を発信しました。さらに昨今は、課題でもある人件費の高騰や労働力不足の解決策、SDGsの対応に向けたデジタル技術なども加え、日本から世界へ販路を広げるビジネスプラットフォームとして活用されています。次回**JIAM**は、2028年秋開催に向けて検討を進めていくこととしておりますので、開催が決まりましたら、改めて、ご案内をさせていただきます。

また、共通基盤ネットワーク研究会において、（一財）機械システム振興協会様から「戦略策定事業」として受託した「縫製工程の自動化に向けたCADデータの取り組み」というテーマで縫製の難工程の自動化に向けて検証を行い、2024年3月に取りまとめを行い、6月に成果発表会を開催しました。今後ともコネクテッド、自動化・省力化に繋がるテーマ活動を続けて参ります。

さて、本年の国内景気の先行きにつきましては、月例経済報告（令和6年11月号）では、「雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある」となっています。

他方、世界情勢では、ロシア・ウクライナ紛争、イスラエルとパレスチナの対立が引き続き地政学リスクは継続しており、米国ではトランプ氏が1月にアメリカ大統領に

就任し米中貿易摩擦の再燃等の可能性があります。今後、グローバルサプライチェーンや環境問題等で大きな影響を受ける可能性があり、十分に動向を注視していく必要があります。

縫製機械業界におきまして、工業用ミシンでは、特に最近では、ユーザーである国内縫製工場は、働き手不足・人件費の上昇や、熟練者の高齢化・不足に悩んでいます。生産性の高い機械や熟練オペレーターのスキルを取り込んだ機械を作るに加え、セットアップに掛かる時間の削減やメンテナンスの効率化など、どのようにすれば生産性を上げることができるのか、どうすれば短期間で難工程を習得できるのかなど、この悩みに応えていくことが、極めて重要だと感じています。今後とも、製造と流通・販売が手を携えて対応していくことが重要だと考えています。

2024年後半からアジア地区での設備投資需要が回復傾向にあり、SDGs意識の浸透や大量生産・大量廃棄の見直し等の環境負荷低減への要請など、市場が求める動きに対応し自動化・ロボット化・IoT・ネットワーク化のテクノロジーを上手く活用することが重要と思っています。

また、家庭用ミシンでは、自らものを作る楽しみへの気運の普及・醸成に期待しており、工業会で行っている「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」、「日本ホビーショーへの出展」などを通じて、もの作りの楽しさの実感体験、普及啓発に努めております。

「第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンク

ール」は、家庭科教育として作品作りに取り組んでいただき、応募校数324校、応募作品数1,925点となりました。いずれも素晴らしい出来栄の力作で、アイデア溢れる個性的な作品となりました。関係された先生方、学校関係者、ご賛同いただいた皆様方のご協力に深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月1日(土)に開催しますので、多くの方々の参加をお待ちしております。私共としては、今後も本コンクールが、家庭科教育におけるミシンを通じた我が国『ものづくり』文化のすそ野拡大、将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に寄与していくものと期待しております。

最後になりますが、私共としましては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図り、関係官庁のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいり所存です。

令和7年の十二支は「乙巳(きのとみ)」です。乙は慎み・辛抱強さ、巳は脱皮する様から復活・強い生命力を象し、乙巳には「辛抱強く努力を重ね、復活・再生を果たす」の意があるそうです。私共、縫製機械業界におきましても、辛抱強く研究開発の努力を重ね、ユーザー企業の発展に資することができるよう努力して参ります。

令和7年が災害のない穏やかな年となるよう祈念するとともに、皆様方のご健勝と益々のご活躍、ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

2. 年頭所感



令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、年始の能登半島地震をはじめとして、台風や豪雨など、多くの予期せぬ自然災害が発生した一年でした。被災された方々に、改めて心よりお見舞いを申し上げます。特に能登半島地震で被害を受けた地域では、復旧・復興はいまだ半ばです。経済産業省として、引き続き復旧・復興に全力を尽くしてまいります。

世界が激動する中で、我が国の経済と社会の安定をいかに守り抜くかが問われた一年でもありました。依然として中東やウクライナにおける戦争は収束の兆しを見せず、我が国のエネルギー政策や産業政策も大きな影響を受けています。また、アメリカではトランプ新政権が発足しようとしており、経済・外交政策がどう変化するか、その一挙一動に世界が注目しています。

経済産業省 製造産業局 産業機械課
課長 須賀 千鶴

こうした中、産業政策については、近年のDXやGXなどの成長分野への積極的な国内投資が実を結び始めています。実際、30年ぶりとなる水準の賃上げ、100兆円を超える積極的な設備投資、史上最高水準の株価、そして名目GDPが初めて600兆円を超えるなど、顕著な成果が現れました。しかし、現在の物価高の影響を受け、消費は依然として力強さを欠いています。このような状況を踏まえ、長年続いたコストカット型経済から「賃上げと投資が牽引する成長型経済」への確実な転換を実現するためには、物価高に負けない持続的な賃上げの実現と、これをさらなる消費と投資へと結びつけていく必要があると考えています。

大企業だけではなく、地元の中小企業においても「稼ぐ力」をつけるため、イノベーション促進のための量子や宇宙分野への大規模投資や、スタートアップの事業化、海外展開への支援をしていきます。また、人手不足という社会

的課題に対処するため、ロボット等で省力化や生産性向上を実現する技術の開発を促進するオープンな環境を整備し、産業のDXを推進していきます。

取引適正化に向けて、「価格交渉促進月間」における取組をはじめ、産業界の皆様には多大な御協力を賜り、感謝申し上げます。今後もサプライチェーン全体で適正な価格転嫁を定着させるため、様々な取組を進めてまいります。

GXでは、昨年末にとりまとめた「GX2040ビジョン」と「エネルギー基本計画」にもありますように、電力需要が増加する中、徹底した省エネに加え、再エネや原子力などの脱炭素電源の最大限の活用を進めてまいります。GXの推進にあたっては、アジアの同志国との連携も強化していきます。昨年の第2回AZEC首脳会合では、日本のリーダーシップのもとで「今後10年のためのアクションプラン」が合意され、今後、ルール形成を含む政策協調とプロジェクトの実施が進んでいきます。

経済安全保障の確保に向け、技術革新への投資や需要側の取組を含めたサプライチェーンの強靱化といった政策により、我が国の製品や技術力の優位性を確保してまいり

ます。そのために、技術流出対策や重要物資の安定供給のための支援にも引き続き取り組んでまいります。

日本の製造業は、急速に変化し続ける環境の中で、複雑で困難な課題に多く直面しています。しかし、それらに果敢に取り組みイノベーションを続けることで、成長を続けられると確信しています。引き続き、皆様の現場の生の声をお伺いし、それらを政策に活かしてまいります。

福島復興と東京電力福島第一原子力発電所の安全かつ着実な廃炉は、引き続き経済産業省の最重要課題であり、今後もこれらに全力で取り組みます。

さて、大阪・関西万博の開催までいよいよ3ヶ月を切りました。「未来社会の実験場」のコンセプトにふさわしい最先端分野の技術が国内外から集結いたします。ぜひ、会場まで足を運んでいただき、新たな産業の誕生と成長の可能性とそれがもたらす未来社会を間近で感じていただきたいと思っています。

本年が、皆様方にとって実りの多い一年となりますよう祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

3. 2025年新年賀詞交歓会開催

当工業会の2025年新年賀詞交歓会は、1月16日(木)13時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催されました。経済産業省をはじめ関係団体、報道関係、当工業会関係者を含め、約90名が出席しました。

初めに、当工業会の内梨会長から、主要事業についての説明と縫製機械業界の現状と課題について、挨拶がありました。主要事業については、①11月27日(水)から11月30日(土)までインテックス大阪において開催された**JIAM 2024 OSAKA**「国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市」について、②「戦略策定事業」として受託した「縫製工程の自動化に向けたCADデータの取り組み」について、③「第45回ホームソーイン

グ小・中・高校生作品コンクール」事業について、それぞれ説明がありました。

続いて近藤副会長より、**JIAM 2024 OSAKA**への協力について感謝の言葉が述べられ、乾杯発声後、歓談のひとときを楽しみました。

ご来賓代表として、経済産業省 製造産業局 産業機械課 須賀千鶴課長から、自然災害の多かった昨年を振り返りつつ、明るい兆しも見えた経済状況についてご挨拶がありました。また、3月に行われる「第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」表彰式への参加を楽しみにしているとのことのお言葉もいただきました。

最後に美馬副会長による中締めのご挨拶があり、盛況のうちに終了しました。



内梨 晋介 会長



近藤 章吾 副会長



須賀 千鶴 産業機械課長



美馬 成望 副会長



4. 第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第45回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数324校、応募点数1,925点でした。厳正な審査の結果、作品賞・学校賞が右のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、2025年3月1日(土)、13時30分より日本工業倶楽部(東京都千代田区丸の内)において執り行う予定です。

なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関に向けてお知らせします。

1. 作品賞
 - 最優秀賞 5点
 - 優秀賞 23点
 - アイデア賞 3点
 - 佳作賞 29点
 - 努力賞 175点
 - ミシンダイアリー部門特別賞 1点
 - 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点
 - SDGs特別賞 2点
2. 学校賞
 - ホームソーイング振興最優秀校賞
小学校、中学校、高等学校 各1校

5. 国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市(JIAM 2024 OSAKA 開催)

2024年11月27日(水)～30日(土)まで、インテックス大阪において、国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市「**JIAM 2024 OSAKA**」を開催しました。

10か国・地域から157社(国内95社・海外62社)、987小間(国内843小間・海外144小間)の出展があり、活況を呈した見本市となりました。

JIAM 2022 OSAKA 開催時には、中国政府による海外渡航制限がありましたが、今見本市では中国からの来場が海外来場者で最多となり、バングラデシュ、インド、スリランカ、韓国がこれに続きました。

※10か国・地域：日本、中国、台湾、香港、ドイツ、イタリア、シンガポール、タイ、インド、イギリス

来場者数^{*1}・登録者数^{*2}(単位：人)

日付	天候	来場者数(内海外)	登録者数(内海外)
11月27日(水)	曇り	2,391(959)	2,391(959)
11月28日(木)	晴れ	2,871(970)	2,070(341)
11月29日(金)	晴れ	2,268(344)	1,775(55)
11月30日(土)	晴れ	1,381(135)	1,134(23)
総合計		8,911(2,408)	7,370(1,378)

- ※ 1 「来場者」とは、日本展示会認証協議会が定める「展示会統計に係る第三者認証制度」における来場者定義に準拠します。
- ※ 2 **JIAM 2024 OSAKA** の来場者数・登録者数値に、出展者、プレス、来賓、登壇者、運営関係者は含まれておりません。
- ※ 3 来場者数（マルチプルカウント）＝複数日にまたぎ来場している方も含めた人数
- ※ 4 登録者数（シングルカウント）＝その日初めて来場し、来場登録した人数

6. インド強制規格の発効

インドにおいて、2024年11月26日に電子・コンピュータミシンを含む新規格「IS15449」（2024：Part 1～4）が発効されました。

「IS15449(2024)」は、インドBISで閲覧・販売しています。

[インドBIS規格の閲覧・販売サイト]

https://standardsbis.bsedge.com/BIS_SearchStandard.aspx?Standard_Number=15449&id=0

「IS15449」（2024：Part 1～4）

- ① IS 15449：Part 1：2024 Household Zig-Zag Sewing Machine/Head - Part 1 General Requirements
- ② IS 15449：Part 2：2024 Household Zig-Zag Sewing Machine/Head - Part 2 Accuracy Requirements
- ③ IS 15449：Part 3：2024 Household Zig-Zag Sewing Machine/Head - Part 3 Sewing Requirements
- ④ IS 15449：Part 4：2024 Household Zig-Zag Sewing Machine/Head - Part 4 Durability Requirements

編集後記

あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年は**JIAM 2024 OSAKA** 国際アパレル&ノンアパレル生産技術見本市が『**JIAM** から、つながる... ～次世代技術と匠の技のコラボレーション 2024～』をテーマに開催され、無事に終了いたしました。

今回も国内外を含めたたくさんのご来場者にお越しいただき、展示会として、大変盛り上がったと思います。

この熱量のまま、今年も縫製機械産業の発展が一層進むように努めてまいりたいと思います。

インフルエンザをはじめとした感染症が猛威を振るっております。皆様もどうぞご自愛ください。(H.M)

JASMA 会報

Vol.21 No.4 2025年1月31日

一般社団法人日本縫製機械工業会

発行責任者: 山下 龍夫

〒105-0004

東京都港区新橋5-25-3 第2-松ビル2階

Tel. 03-6435-8190 Fax. 03-6435-8192

URL <https://jasma.or.jp>

e-mail info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、発行後、当工業会ホームページに掲載しております。